



# SWIFT News

Vol.1 July 2020

## ご挨拶

SWIFTでは、今年度より「SWIFTニュース」を刷新いたしました。この度、第1号をお届けします。

「SWIFTニュース」では、会員各社様の事業のお役に立てるよう、最新の取り組みについて、定期的にお知らせしており、今年度は2回の発行を予定しています。

今号では、SWIFT gpi (グローバル ペイメント イノベーション)、スタンダードズ (標準)、CSP (顧客セキュリティプログラム) を取り上げています。

### SWIFT gpi (グローバル ペイメント イノベーション)

すでに、報道記事などからご存知かもしれませんが、日本では、地方銀行を含め多くの銀行がSWIFT gpiを採用しています。現時点で、参加を表明した邦銀は70行を超えており、全ての会員様に対しては、導入研修の一環として、定期的に情報を提供してまいります。今後数年間に渡って、SWIFT gpiは確実に、国際送金の運用に大きな影響を与えていくことでしょう。今後とも、運用効率の向上、最終顧客向けサービスの向上、さらなるサービスの展開に努めてまいります。

### スタンダードズ (標準)

スタンダードズに関するご報告では、「スタンダードズリリース (SR) 2020」の変更に関する情報、ならびに「ISO 20022プログラム」の関連情報をお届けします。

なお、ISO 20022プログラムについては、2020年3月に開催されたSWIFT理事会において、ISO 20022移行のタイミング変更、またISO 20022とAPIを活用し

た、データリッチで高速、高機能なプラットフォーム (トランザクションマネジメントプラットフォーム、以下TMP) を通じて金融機関の送金や証券業務をサポートするという意欲的な計画が承認されました。この拡張機能により、豊富なデータを使用したコミュニティの革新が可能になり、あらゆる分野でのポジションが強化されます。TMPは、2022年末に予定されている国際送金とキャッシュマネジメントのISO 20022移行に利用されます。2020年6月のSWIFT理事会では、TMPの基本的なデザインについて報告されています。こちらの概要については本文をご参照ください。技術的な詳細等は今後の発表をお待ちください。

### CSP (顧客セキュリティプログラム)

SWIFTにとって、セキュリティは最優先の課題です。そのため2020年、SWIFTは全てのメンバーに、内部または外部機関による独立検証の実施を義務付けておりましたが、2020年6月の理事会の承認を得てCSCF2019版に対しての自己査定へ変更されましたので、今号でご案内いたします。

2019年、日本のコミュニティのセキュリティ管理での、自己査定率は非常に高くなっています。実際、2019年12月31日の期日までに自己査定を提出いただいた日本のSWIFTメンバー様は95%を超えています。SWIFTでは、セキュリティの重要性を認識しており、皆様の継続的なご協力に感謝申し上げます。

### SWIFTコミュニティ支援に向けて

「Payment Control (決済管理) サービス」の展開、ならびに海外向け決済に対

する保護の強化に取り組んでおります。これにより、メンバー各社様の社内インフラに新たに保護レイヤーを追加し、不正支払いが実行される前の特定が可能となります。

最後になりましたが、SWIFT東京オフィスは、現在30余名のスタッフを有しており、皆様により良いサービスを提供すべく、サービス業務、支援業務に従事しております。SWIFTオフィスではスタッフの増員に対応するために社内のレイアウトを変更しました。どうぞ、当チームを貴社のためにご活用ください。

なお、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、お客様とのご連絡にご不便をおかけしておりますことお詫び申し上げます。お客様およびスタッフの安全を確保するため、全てのイベント、ワークショップを中止いたしました。影響が最小限に留まることを切に願っております。時節柄、どうぞ安全にお過ごしいただきますよう、また今後ともご厚情賜り、お引き立ていただきますよう、お願い申し上げます。



SWIFT日本代表  
アラン・デルフォッセ

# SWIFT GPI JOURNEY

## SWIFT gpi ~グローバル ペイメント イノベーション~

SWIFT gpi の  
最新情報を  
お知らせします。

### SWIFT gpiを取り巻く環境とグローバルでの 評価

SWIFTでは、40年以上にわたり、外国送金サービスを提供していますが、同サービスの最大の課題であった"スピード"と"コスト"、つまり、「いつ届くかわからない」、「いくらかかるかわからない」、という点を解決する手段として、SWIFT gpiの提供を2017年に開始しました。

SWIFTを導入済みの銀行のお客様は、既存のインフラに最小限の拡張を行うことで容易にこのgpiをご利用いただけること、また、gpiを導入することで銀行の顧客である事業法人には海外送金の可視化と早期化を可能にし、これがキャッシュフローの最適化などの大きなメリットをもたらすため、gpiの導入は短期間のうちに広く普及しました。

一方で、インターネットやモバイル利用の浸透、ブロックチェーン技術やデジタル通貨等の台頭が進んでいますが、新しい技術を決済サービスに取り込む際のリスクは非常に高く、結局のところ、大きな対価が求められる事も多いといえます。昨年、オーストラリアで発生したウエストパック銀行の事例は、一つの教訓として考えられます。

同銀行では安価で、ほぼ1時間以内で送金が完了するというLitePayという新しいインフラを利用した海外送金サービスを開始しましたが、昨年11月に、2,300万件に及ぶ送金がマネーロンダリング防止法に違反していたとして提訴されました。

外国送金のサービスの多様化が進んでいるのも事実であり、この環境下では、SWIFTのサービスについての課題が言及されてはいるものの、金融業界全体の中で、SWIFTが世界規模で利用可能な海外送金サービスの中で、

最も安全・確実なサービスであると評価されていることは疑いの余地のないところですが、アジアの開発途上国等においては、銀行の安全性を測る指標としてSWIFT gpiへの加盟が推奨されており、総合的に高い評価を得ています。

### 日本におけるSWIFT gpiの最新動向

日本では、メガバンク3行（三井住友銀行、三菱UFJ銀行、みずほ銀行）が加盟した後は、世界全体と比較して、中・小規模の銀行の参加が遅れていましたが、2019年から2020年にかけて68行からご契約いただき、gpi導入を支援するプロジェクトを始動しています。

複数のお客様に日本のコミュニティ向けにカスタマイズした導入プログラムを同時に研修することにより、個別のお客様のリスクを軽減し、導入の確実な完了を目指してまいります。新型コロナウイルスによる影響については、現時点ではまだ完全に把握できない状況のため、随時必要な対策を実施してまいります。

SWIFTからお客様に情報提供を直接行う機会として、新たに四半期ごとのSWIFT gpiコミュニティセミナー、課題ごとのワーキンググループ、SWIFTユーザー会等を設けてまいります。

これらの活動を通じてユーザーの皆様からのご要望を集約し、日本のコミュニティ向けのサービスの拡充や、ISO 20022やクラウド化など含めた今後の対応について、コミュニティ向けソリューションを整備していく予定です。

# SWIFT GPI JOURNEY

## 2020年に予定されているSWIFT gpiの拡張機能について

これまでは全てのメッセージは、送金依頼元の銀行から中継銀行を経由して受益銀行まで送信することしかできませんでしたが、SWIFT gpiの導入後は、SWIFT自身がネットワーク上で送信経路を直接管理することが可能になりました。それに伴い、各種の利便性を上げるための機能を拡張しました。

例えば、外国送金サービスの中で発生する煩雑な作業などのフリクションを改善するため、これまで個別に対応しなくてはならなかった手作業の軽減と迅速化を図るための機能を追加しました。

## SWIFT gpi Case Resolution

SWIFT gpiのプレミアムサービスであるCase Resolutionを活用すると、送金後に必要となる追加情報等の問合せを、受益銀行からのリクエストとしてトラッカー上で直接受け付け、SWIFTが送金元の銀行にSWIFTトラッカーから直接問合せすることが可能になります。

送金元の銀行と受益銀行との間の問合せを直接連携し、かつ48時間以内での回答といったルールを設定することにより、これまでの煩雑な問合せ業務の負荷を軽減し、短期間で必要な情報入手ができることとなります。

当該機能は、API連携又はSWIFTトラッカー上で入力することにより利用が可能です。現在、日本のコミュニティ向けの特別パッケージをご用意しており、多くのgpi加盟行様からアーリアアダプタープログラムへの参加申し込みを受けております。

## SWIFT gpi Pre-Validation

送金時に口座や名義人などの受益者情報に誤りがあると返金処理となり、情報再確認後の再送金などの追加作業が発生します。これを回避するために、受益銀行に対して送金前に送金情報が正しいか、入金可能な口座かどうか等について確認した後に送金を実施するというサービスがPre-Validation（事前検証）です。

現在複数の銀行でテスト運用が実施されており、2020年中にはサービスが本格的に稼働する予定です。この機能はAPI連携による実装を前提としています。

## SWIFT gpi for Corporates (g4C) 事業法人向けサービス

2019年に本番稼働した事業法人向けのサービスg4Cについて、2020年に更なる拡張を推進していきます。昨年までは、事業法人から送金依頼のあった仕向けの送金状況のみが可視化される機能でしたが、2020年には事業法人向けに送金開始された被仕向けの送金情報についても可視化されることにより、法人様のキャッシュフロー全体の可視化に大きく貢献します。多くの日本の事業法人のお客様から当該サービスに参加したい旨の要望をいただいております。パイロットプロジェクトが立ち上がる予定です。

また、g4Cを利用した際のキャッシュフローの可視化のためのソリューションであるSWIFT Scope1についてのワーキンググループを日本国内で立ち上げ、口座残高や送金の仕向け・被仕向けの状況を含めたキャッシュフローの可視化のためのソリューションについての協議会を実施する予定です。

## SWIFT gpi Instant

国内決済ネットワークのISO 20022ベースでのインスタントペイメント化が各国で進んでいるなか、SWIFT自身のネットワークも新しい技術を適用しながら進化を続けており、外国送金を1分以内で完了する新たなサービスgpi Instantの整備を進めています。

各国のインスタントペイメントネットワークとSWIFTネットワークの連携により、gpiサービスをさらに高度化する試みは、オーストラリア、シンガポール、EUで実証実験が完了し、2020年にはさらに複数の国での実証実験と、一部先行している銀行間でのサービスとして本番稼働する見通しとなっています。

日本においても、リテール向けの送金サービスとしての活用の検討が進められており、パイロットテストに参加いただけるお客様を募集する予定です。

ペイメントマーケッツ ディレクター  
鈴木 咲子

# SWIFT GPI JOURNEY

## THE BANK OF OKINAWA ～沖縄銀行～

沖縄銀行 証券国際部  
市場企画グループ  
調査役の  
前原寛之様に  
SWIFT gpi 参加への  
経緯と  
その成果について  
お話を伺いました。

PEOPLE'S BANK

① 沖縄銀行

### SWIFT gpiに参加を決定された背景について教えてください。

沖縄銀行では、沖縄という地域の特性から、これまでも海外送金を含めたグローバルでの金融サービスを独自に推進してまいりました。「地域に密着し、地域に貢献する」ことを目指し、今後の沖縄でのグローバルビジネス拡大にむけて、「世界水準の観光リゾート地の形成」や「アジアと日本の架け橋となる国際物流拠点の形成」を支援しています。その中で、海外送金を担うSWIFTの、進化したSWIFT gpiのサービスを活用することで、海外送金情報が可視化され、お客様の流動性資金管理の品質向上に貢献できると考え、gpiへの参加を決めました。

事業法人から依頼された送金が同日内に確実に取引先の銀行口座へ振り込まれることに加え、送金処理が開始された時点でその情報が送金を受取る事業法人に連携して提供されるなど、お客様の資金管理の品質を向上させることができます。

また、新たなSWIFT gpiの拡張機能は、1分間以内に外国送金を完了するなど、資金決済のサービスのさらなる拡充のために利用可能であると考えています。

### SWIFT gpiの参加決定に際して、ハードル等ございましたでしょうか。

2018年にSWIFT gpiについて説明を聞いた際には、そのメリットは理解できたものの、グローバルでの普及状況について疑問が残りました。SWIFTのサービスにおいては、そのスピードや透明性、いつ送金が完了するか、手数料がいくらかかるか事前にわからない、といった課題はありましたが、多くの銀行が

SWIFT gpiに参加しなくてはその価値が発揮されないと考えたからです。

昨年には、他国での普及状況の進捗、特に中国での目覚ましい導入事例など、世界規模で導入が進んでいることから、gpiが今後のSWIFTの標準になると確信できました。

また、拡張機能の充実により、これまで提供できなかったサービスも拡大していけるのではという将来性が見えたことも、参加への判断に対してプラスの要因になりました。

### 入金完了の情報をSWIFTトラッカーへ送信する自動化について、SWIFT SIL (SWIFT Integration Layer) を選定いただいた背景についても、教えてください。

コストの削減や今後のクラウド化などを見据えてSWIFTから提案のあったSILによるコミュニケーションパッケージを検討した結果、最終的に採用する判断に至りました。

今後のSWIFT gpiの仕様変更やStandards releasesへの対応は必須のため、SWIFTのサービスの活用をさらに進めながら、コストの低減を図る必要があると考えています。

また、gpiの自動化のみならず、ISO 20022への対応や、クラウド化への対応など、将来についてもソリューション全体の最適化が提案されており、今回の投資が将来にわたって有効に活用される点が一番の選定理由になりました。

また、SWIFT Japan社から直接的な支援が得られるようになったことも導入決定の重要な要因ですので、日本国内でのSWIFT社の体制の充実を引き続きお願いします。

# SWIFT GPI JOURNEY

**SWIFT gpiおよびSWIFT SILを導入していく上で、SWIFTに対する要望がありましたらお聞かせください。**

2020年11月には、クレジットコンファメーションの義務化を確実に完了できるよう、万全なプロジェクトの実行とサポートをお願いしたいと思います。

**SWIFT gpiの拡張機能として、フリクションを無くすための機能（Case Resolution / Pre-Validation）、海外送金サービスに伴う複雑な処理を削減するための機能を予定していますが、貴行が期待されることや、展望を教えてください。**

海外送金サービス提供の際には、今でも多くの人的作業が必要です。各種本人確認や、送金元への問合せなど、多くの課題が残されている部分です。

送金元銀行に問合せ、一定時間内に確実に回答を受け取ることができ、送金前に口座情報の有効性などを事前確認することができるツールは、人的作業の軽減と、正確性・効率性の向上に非常に有効な手段であると考えており、今後、簡単に実装・利用が可能かなどを検証していきたいと考えています。

**今後のSWIFT gpiにおいてSWIFTは、コミュニティからの声をもとに、各銀行様がSWIFT gpiを活用して新たなサービス拡大ができる機能拡張を検討しておりますが、これらの利用の可能性について、ご意見をお聞かせください。**

お客様の利便性向上のため、SWIFT gpiを活用したいと考えておりますので、インター

ネット上でお客様が送金状況を直接確認できるツールや、モバイルからの海外送金サービスを提供するなど、新たなサービスへの活用に向けて積極的に取り組みたいと考えています。

**SWIFT gpiの日本での拡大に向けて、コミュニティへのメッセージをお願いします。**

SWIFT gpiは、既存の送金経路を通して、グローバルなネットワークの規模を維持しつつ、当日着金（多くは30分以内）など飛躍的な送金スピードの向上を実現しています。

外国送金サービスの利便性向上に向けて、他行の皆様もぜひ積極的にご検討・ご活用をお願いします。

## THE FUTURE OF SWIFT GPI

2020

**[Case Resolution]** Improving customer experience through efficient processing of enquiries and investigations

**[Pre-Validation]** Reducing friction by pre-validation payment information

**[Faster gpi Payments]** Delivering universal instant payments

**[Notification/Visibility Incoming]** Enabling tracking and notifications for incoming payments

**[Request for Payment]** Enabling integrated procure-to-pay solution for cross-border payments

**[Financial Institution Transfers]** Tracking for high value financial institutions

**[Explore] Open APIs -** Defining a cross-industry common API

**[Explore/design] API Portlet -** Getting the Tracker without detailed coding for smaller banks



# CUSTOMER SECURITY PROGRAM

## カスタマーセキュリティプログラム

6月に開催された理事会での決定を受けて、6月18日にカスタマーセキュリティ部門責任者からのレターをKYC-SA担当者様へ送付いたしました。その情報はswift.comへも掲載されました。日本語訳をご確認ください。

訳注：英文版が正本であり、日本語版は参考として作成されました。両言語版の間に矛盾抵触がある場合、英文版が優先されるものとします。

### カスタマーセキュリティプログラムフレームワークサイクルの調整

SWIFTカスタマーセキュリティプログラム（CSP）は、金融業界のサイバーセキュリティを強化するための堅牢なフレームワークです。2017年より、カスタマーセキュリティコントロールフレームワーク（CSCF）は金融業界をサポートするプログラムの柱となり、段階的に強化され、現在は多数の必須コントロールを包含しています。昨年、FIN Trafficの99%を占めるSWIFTユーザーのうち93%が自己査定の結果を提出し、これらのコントロールの準拠を確認しました。

毎年、SWIFTはプログラムのハードルを上げてきました。2020年には、2つのコントロールについて現在「推奨」のものを「必須」へ引き上げることを計画し、さらに必須の独立検証を評価のプロセスに導入しました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックの影響を受けて、金融業界が事業の持続性に重点を置き、場合によっては、ITやその他のプロセスの変更が保留中であることを認識しました。今後の強化策の実装をSWIFTのコミュニティにとって実行可能なものとするべく、当初公開されていたタイムラインを改定いたします。

金融機関の皆様には、2020年末までに、2019年のコントロールセットに対して再査定を行うようお願いいたします。2021年7月から2021年12月の間に、独立検証に裏付けされた2020年と2021年のコントロールフレームワークの要件を合わせたものに対して、再度評価をしていただけます。

### タイムラインのサマリ

- 2020年7月初めから2020年12月末日の間に、CSCF v2019で必須とされていた19のコントロールを遵守していることを確認し、再評価をお願いいたします。コントロールが明確化された最新のCSCFバージョンを参照することをお勧めいたします。評価を提出する前に、必ずアーキテクチャとコントロールの再評価を行い、インフラに加えられた変更をすべて評価に反映する必要があります。
- 2020年中にCSCF v2020コントロールを導入する、また独立検証にてその信用性を裏付ける準備がある場合には、それを推進することを推奨いたします。
- 2020年中に、自己査定にて評価を提出することが可能です。2021年の半ばから、内部又は外部の独立検証をCSCF v2021に対して行う必要があります。

皆様からのご質問に答える準備として、よくある質問と回答のリスト（FAQ）をご用意しました。ご質問がございましたらサポート窓口へご連絡ください。

6月24日（水）開催のCSP2020アップデートのウェビナーのスライドとビデオを **5024038 - CSP Update 2020 COVID-19**に掲載いたしましたのでご確認ください。

### CSP専用日本語サポート窓口：

オンライン・ケースマネージャー

Case Manager 電話：03-6743-0571

E-mailでのお問い合わせ（CSPに関する内容のみ）  
**csp.apac@swift.com**

日本語サポート時間：日本時間平日9時～17時30分（日本の銀行休業日を除く）

# STANDARDS

## スタンダードズ 関連情報

### MT電文SR 2020全体について

SR 2020は、証券電文（カテゴリー5）以外は全てSR 2021に延期される運びとなりました。これは、COVID-19の影響により、コミュニティが十分に準備を行うことができないと判断したことに基づいて決定されました。（注：スタンダードズの変更ではありませんが、送金電文に関連するという観点からSR 2020 High Level Informationにはgpi Universal Confirmationの2020年11月導入が記載されています。gpi Universal Confirmation導入はSR2020の延期には影響されず、予定通り実施されます。）

証券電文（カテゴリー5）については、ヨーロッパ市場における法令遵守関連の変更事項が含まれるため、予定通りSR 2020に実施されます。ヨーロッパ市場における法令遵守関連の変更事項には、「ファスト・トラック」（法令遵守のための変更等至急の変更を通常の定例更改サイクル外で受け付けるもの）によって通常の承認プロセスの後に追加されたものがあります。

詳細はオンライン・ユーザーハンドブック掲載のStandards Release GuideまたはMyStandardsをご覧ください。

### Updated High Level Information並びに 2020年スタンダードズリリースの日程：

<https://www.swift.com/standards/standards-releases/mt-release-2020?tl=en#topic-tabs-menu>

### オンライン・ユーザーハンドブック：

[https://www2.swift.com/knowledgecentre/publications/srg\\_20191220](https://www2.swift.com/knowledgecentre/publications/srg_20191220)

### MyStandards：

<https://www.swift.com/our-solutions/compliance-and-shared-services/mystandards>

なお、証券電文（カテゴリー5）SR 2020の主要な変更点は、以下の通りとなります。

### 決済と照合：

- MT 537/548：欧州のCSDRによるペナルティメカニズム導入に関連する変更事項
- MT 586：ポートフォリオトランスファーが拒否された際の詳細情報（理由コードおよびフリーテキスト）追加

### コーポレートアクション：

- MT 566：クオリファイアMITI（Market Infrastructure Transaction ID）を20Cに追加
- クオリファイア CDFI（Foreign Income）の名称・定義変更
- クオリファイアPRIIの削除（元利払いについて2イベントでの処理を推進）
- MT 565：Seq C 70GクオリファイアCETIについてZキャラクターセットを使用開始（Eメールアドレスの記述が@で可能となる）
- MT 565/567：MT565に源泉徴収税のクオリファイアを追加して税金の詳細を記述可能とし、関連する理由コードをMT 567に追加する

# STANDARDS

## ISO 20022移行について (ISO 20022プログラム)

本年3月の理事会における検討結果を受け、移行開始時期の変更と新しいプラットフォームの導入に関する発表がありました。この内容はswift.comに掲載され、日本では2020年3月27日にユーザーコミュニティ向けのウェビナーが開催されました。swift.com掲載の記事は下記のリンクからご覧いただけます。

<https://www.swift.com/standards/iso-20022-programme/timeline?tl=en#topic-tabs-menu>

また、2020年5月にはSWIFTより2020年リリース関連情報が公表され、日本語を含む多言語の解説がswift.comから視聴可能です。

<https://www.swift.com/news-events/webinars/past-webinars/iso-20022-support-in-2020-updated-release-plans>

2020年6月の理事会では、中間的なアップデートとして3月理事会において承認された戦略とISO 20022プログラムの新しいアプローチが再確認されたほか、新たなプラットフォーム（トランザクションマネジメントプラットフォーム、以下TMP）の基本的なデザインが報告されました。

- SWIFTは、ユーザーコミュニティが迅速かつ摩擦のない国際送金を実現できるようTMPを提供する。このプラットフォームは2022年終盤から本番稼働し、SWIFTの中心的な業務である国際間の金融法人向け送金とキャッシュマネジメントをサポートする。同時に様々な高成長分野（Eコマース、中小金融法人向けサービス、リテール業務等）への今後の取り組みも可能とする。
- TMPでは新しい技術であるAPI、クラウドを取り入れ、取引管理を可能とする。ISO

20022のリッチデータを使用するが、移行期間においてはMT、MX、APIの間での下位互換性を保つ。

- 3月理事会で承認された通り、SWIFTは国際送金とキャッシュマネジメント電文のISO 20022移行を当初予定から1年延期し、2022年末に開始する（他の業務分野についての変更や影響はない）。当初の計画通り、MTカテゴリ1、2および9の電文の国際送金とキャッシュマネジメントへの使用は2025年11月に停止される。
- 2022年年末から開始される国際送金とキャッシュマネジメント電文のサービス（FINplus）では、InterAct Store and Forwardのメッセージングサービスを使用する。また、ISO 20022電文を作成する際にはCBPR+市場慣行を使用する。
- TMPIについて：国際送金とキャッシュマネジメントの電文はTMPを介して送受信される。ユーザーはMT、MX（ISO 20022の電文）またはAPIを使用することができる。
  - » 完全な取引情報をTMP上に維持する。取引情報へのアクセス権付与について、どの情報に送金チェーン上のどのパーティーがアクセスできるか、またどのパーティーによるどのような上書きや変更が可能かといった点について検討中である。
  - » TMPIはCBPR+のマッピングに基づく翻訳サービスが提供され、移行期間中のMT、MX、APIの下位互換性を可能とする。
  - » サンクションスクリーニング等TMP経由で提供されるサービスへの接続や、取引情報の取得にはAPIを使用する。

- 国際送金とキャッシュマネジメントの電文はTMPを経由するが、その他MTやMXで提供されるサービスは現状通りのメッセージングを使用する。（貿易金融、事業法人向け電文送受信、為替コンファメーション等）
- 新しいアプローチとTMPにおいても、ISO 20022電文とそのCBPR+市場慣行は継続して使用される。主要電文については既にCBPR+市場慣行や翻訳ルールがMyStandards上に公表されている（Figure 1. 参照）。翻訳ルール、サンプル電文検証や翻訳の試行のためのツールがあり、市場慣行と各ツールには以下のリンクから接続できる。

<https://www2.swift.com/mystandards/#/c/cbpr/landing>

## ユーロ市場向けの対応について：

- 2021年11月以降、ISO 20022準拠となるTarget 2やEURO1といった資金決済市場インフラのシステムでは、その送金指図にMTフォーマットでは対応しきれないデータが含まれる可能性がある。これらの送金指図が国際送金指図となる内容を含む場合、送信者はコンプライアンスリスクを軽減するため、国際間で使用するMT電文に元のISO 20022電文にある主要なパーティー情報が記載できることを確実にしなければならない。SWIFTはTarget 2やEURO1を導入する金融機関の手引きとなる正式な市場慣行を作成し、2020年7月に提供する。
- 送信者・受信者が双方CBPR+のISO 20022電文を利用できる場合には、FINplusサービスに任意で参加・使用することができるよう準備する。



# STANDARDS

新型コロナウイルス感染症の影響により、年内は対面でのセミナーを開催しないため、今後も日本語ウェビナーにてアップデート情報の提供を継続します。また、関連のSWIFTSmart（オンライン研修）の準備も進んでおりますので、是非ご利用ください。

## ウェビナー情報ページ：

<https://www.swift.com/webinars#topic-tabs-menu>

## SWIFTSmart：

Transaction and Account Reporting with ISO 20022

[https://swiftsmart.swift.com/Saba/Web\\_spf/EU1PRD0018/common/ledetail/cours000000000049742](https://swiftsmart.swift.com/Saba/Web_spf/EU1PRD0018/common/ledetail/cours000000000049742)

Figure 1. CBPR+ 市場慣行と各ツール

The screenshot shows the MyStandards website interface for the 'Cross-border Payments and Reporting Plus' (CBPR+) page. The page is in English but has several Japanese callouts overlaid on it. The main content includes an introduction to CBPR+ specifications, a list of resources, and two main sections: 'ISO 20022 Messages' and 'MT/ISO 20022 Translation rules'. The 'ISO 20022 Messages' section mentions that specifications are based on Standards Release and that all functional change requests must be tested by SWIFT. The 'MT/ISO 20022 Translation rules' section states that translation rules will be implemented between end-2022 and November 2025. Japanese callouts include: 'アクセス申請' (Access Request) pointing to 'request access' and 'documentation' buttons; 'CBPR+仕様書' (CBPR+ Specification) pointing to the 'User Handbook' button; 'テキスト電文確認ツール' (Text Message Confirmation Tool) pointing to the 'Readiness Portal' button; 'MT/MX 対照表' (MT/MX Comparison Table) pointing to the 'MT/MX 対照表' button; 'MT/MX 電文例' (MT/MX Message Examples) pointing to the 'MT/MX 電文例' button; 'アクセス申請' (Access Request) pointing to the 'Request access' button; and '翻訳ツール参照ツールと電文確認ツール' (Translation Tool Reference Tool and Message Confirmation Tool) pointing to the 'Translation Portal' button.

## 参考資料

### Deloitte Treasury Advisory Servicesによる報告書

SWIFT for Corporates 『取引|銀行とのシングルウィンドウ接続その本当のコストと価値』

[https://www.swift.com/sites/default/files/documents/swift\\_deloitte\\_report\\_study\\_corporates\\_jp.pdf](https://www.swift.com/sites/default/files/documents/swift_deloitte_report_study_corporates_jp.pdf)

\*PDFが開きます

### ケーススタディ

KDDI 株式会社 『財務管理業務効率化のためSWIFTを採用』

[https://www.swift.com/sites/default/files/documents/swift\\_kddi\\_case\\_study\\_jp\\_2020.pdf](https://www.swift.com/sites/default/files/documents/swift_kddi_case_study_jp_2020.pdf)

\*PDFが開きます

### 日本銀行決済機構局

決済の未来フォーラム クロスボーダー送金分科会（5月13日開催）議事概要

[https://www.boj.or.jp/announcements/release\\_2020/rel200617a.htm/](https://www.boj.or.jp/announcements/release_2020/rel200617a.htm/)

## About SWIFT

---

SWIFTは協同組合組織であり、世界中のほぼすべての国と地域において、金融業界全体で11,000を超える組織にセキュアな金融メッセージサービスを提供しています。50年近くにわたり、絶えず変化する情勢の中、進化を続けることで、確実性、継続性、優位性を提供してきました。急速に環境が変化する今日、以前にも増してつながりが拡大し、取り組むべき課題の多いこの世界において、SWIFTのアプローチは、重要度を増しています。詳細については、SWIFT営業担当にお問い合わせいただくか、[www.swift.com](http://www.swift.com)をご覧ください。

### スイフト・ジャパン株式会社 (SWIFT JAPAN LTD.)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 日本生命丸の内ビル 20階

電話：03-5223-7400（代表） FAX：03-5223-7439

日本語対応： 平日9時～17時30分（日本の銀行休業日を除く）

英語対応： 年中無休 24時間

\*日本のサポート時間外は香港、欧州、または米国のサポートセンターに自動転送されます。